

古代

『日本後紀』の弘仁二年（八一二）四月二十二日条に「廢陸奥国海道十駅更於通常陸道置長有高野二駅為告機急也」とある。「陸奥国海道（浜通り）の一〇駅が廢止され、かわって常陸に通ずる久慈川沿いの道に長有・高野の二駅が設置された。機急を告げんがためにこの措置がとられた」とあるのによれば、陸奥国府多賀城への連絡は海道經由よりも長有・高野を經由する方が早かったことがうかがえる。

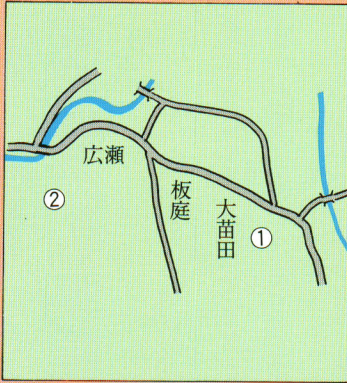
また『延喜式』に本町に關係する記述として「高野に馭馬二匹をそなえること」、承平五年（九三五）の『和名抄』に『常世』『高野』の郷名が見える。

昭和四十二年七月、山林を耕地に造成中、直刀二振りと鉄鏃、鉄斧が出土（大字伊香・高野里古墳）した。古代の埴には、既に貴重な副葬品を埋葬することのできる人がいたのである。

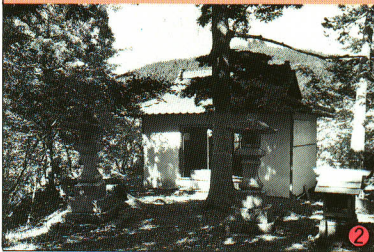
高野里古墳



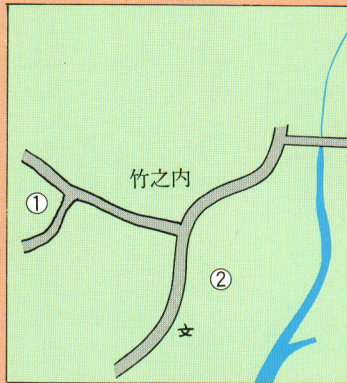
板庭



- ①板庭銚子館跡②巖島神社 {木造弁財天立像}



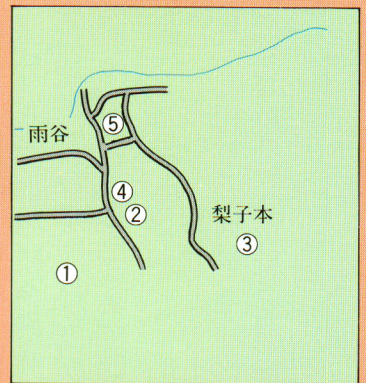
竹之内



- ①竹之内不動院 {供養塔・碑石}
②稻荷神社



常世中野



- ①中野平館跡②天照皇太神社③八竜神社④常世観音堂 {木造如意輪観音菩薩坐像・観音収蔵用厨子・扁額} ⑤道標

